

ドラッグインフォメーション

平成28年1月改訂

販売名	カフェイン水和物「ヨシダ」	製造販売	吉田製薬株式会社	
局方名	日本薬局方 カフェイン水和物	発売年月	2008年7月	
洋名	Caffeine Hydrate	薬価収載年月	2008年7月	
一般名	カフェイン水和物	薬価	1g 9.50	健保適用
剤形	散剤	日本標準商品分類番号	872115	
規制区分	劇薬	YJコード	2115004X1140	
厚生労働省薬価基準収載医薬品コード	2115004X1140	YJコード	2115004X1140	
構造式	<p>分子式: $C_8H_{10}N_4O_2 \cdot H_2O$ 分子量: 212.21</p> 	性状	<p>本剤は白色の柔らかい結晶又は粉末で、においはなく、味はやや苦い。 クロロホルムに溶けやすく、水、酢酸(100)又は無水酢酸にやや溶けにくく、エタノール(95)に溶けにくく、ジエチルエーテルに極めて溶けにくい。 本剤1.0gを水100mLに溶かした液のpHは5.5~6.5である。 本剤は乾燥空气中で風解する。</p>	
組成	本剤1g中、日局カフェイン水和物1gを含む。			
効能・効果	<p>ねむけ、倦怠感 血管拡張性及び脳圧亢進性頭痛(片頭痛、高血圧性頭痛、カフェイン禁断性頭痛など)</p>			
用法・用量	<p>カフェイン水和物として、通常成人1回0.1~0.3gを1日2~3回経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。(参考: 極量は1回0.5g, 1日1.5g)</p>			
配合変化	<p>アスピリンと混和すると湿潤する。スルピリンとは条件によっては湿潤する。サリチル酸ナトリウムとは固化を起こす。水溶液中ではヨウ素化合物、アルカリ塩類、タンニン酸と沈殿を生じる</p>			
薬理作用	<p>中枢作用としては、大脳皮質を中心とした、興奮作用、末梢作用としては、心筋収縮力増強作用、血管拡張作用、平滑筋弛緩作用、利尿作用などを現す。細胞レベルでの作用機序としては、筋小胞体からのCa^{2+}遊離作用、ホスホジエステラーゼ阻害作用、アデノシンA_1受容体遮断作用などを示す。</p>			
薬物動態	<p>カフェインは経口投与でも容易に吸収され、体内に分布する。皮膚からも吸収される。カフェインの体内変化は主としてN-脱メチル化と8位の酸化である。ヒトの場合はN-脱メチル化した1,7-ジメチルキサンチンが多い。カフェインの服用後48時間の尿中への排泄物は、それが更に脱メチル化した1-メチルキサンチンとそれが酸化された1-メチル尿酸が多く、両者で46%、1,7-ジメチルキサンチン、7-メチルキサンチン、1,3-ジメチル尿酸と未変化体が少量ずつである。ヒトでの半減期は成人では約3~6時間であるが、新生児では100時間にもなる。生後6箇月までは肝の代謝機能が発達していないので、未変化体のまま尿中に排泄される。血中たん白結合率は約37%で、分布容積は0.61L/kgである。</p>			
毒性	急性毒性: 最小致死量 (g/kg)	イヌ	ネコ	ラット
	経口	0.14~0.15	0.1~0.15	0.2
	皮下	0.1	0.15	0.13
	腹腔		0.18~0.2	0.21~0.28
使用上の注意	<p>1. 慎重と投与(次の患者には慎重に投与すること) (1)胃潰瘍又はその既往歴のある患者(胃液分泌を促進するため、悪影響を及ぼすおそれがある) (2)心疾患のある患者(徐脈または頻脈を起こすことがある) (3)緑内障の患者(症状を悪化するおそれがある) 2. 相互作用 併用注意(併用注意すること)</p>			
	薬剤名等	臨床症状・措置対策	機序・危険因子	
	キサンチン系薬剤 アミノフィリン ジプロフィリン テオフィリン等 中枢神経興奮薬	過度の中枢神経刺激作用があらわれることがある。	併用薬の代謝・排泄を遅延させることがある。	
	MAO阻害剤	頻脈、血圧上昇等が現れることがある。		
	シメチジン	過度の中枢神経刺激作用が現れることがある。	本剤の代謝・排泄を遅延させることがある。	

使用上の注意	3. 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない		
	種類\頻度	頻度不明	
	大量投与	振せん、頻脈、期外収縮、耳鳴、不眠、不穏等	
	4. 高齢者への投与 一般に高齢者で排泄機能が低下しているので減量するなど注意すること。		
	5. 妊婦、産婦、授乳婦への投与 胎盤を通過し、また母乳中に容易に移行するので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人及び授乳婦には長期連用を避けること。		
	6. 過量投与 徴候、症状：消火器症状(悪心・嘔吐)、循環器症状(不整脈・血圧上昇等)、精神神経症状(痙攣、昏睡)、呼吸器症状(呼吸促進、呼吸麻痺等)などの増悪をおこすことがある。 処置：胃洗浄や吸着剤・下痢の投与により薬物を除去し、輸液等により排泄促進を行う。 また、興奮状態には対症療法としてジアゼパム注、フェノバルビタール注などの中枢神経抑制薬投与を考慮し、呼吸管理を実施する。		
取扱い上の注意	規制区分:本品は劇薬である。 貯 法:気密容器、室温保存		
備考	包装単位:25g, 100g, 500g	文献 請求先	吉田製薬株式会社 学術部 東京都中野区中央5-1-10